

# 清水遺跡 (1地区第2次)

遺跡番号 208-114  
調査回数 第2次  
所在地 山形県村山市大字名取清水南  
北緯・東経 38度30分45秒・140度22分16秒  
調査委託者 国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所  
起因事業 東北中央自動車道(東根～尾花沢)  
調査面積 4,450 m<sup>2</sup>  
受託期間 平成23年4月1日～平成24年3月31日  
現地調査 平成23年5月16日～10月27日  
調査担当者 天本昌希(現場責任者)・五十嵐萌・岩崎恒平  
調査協力 村山市教育委員会・村山教育事務所  
遺跡種別 集落跡  
時代 平安時代  
遺構 竪穴住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑・柱穴  
遺物 土師器・須恵器・石器・陶磁器・金属器 (文化財認定箱数: 5箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

## 調査の概要

清水遺跡は、村山市のほぼ中央に位置し、最上川右岸の丘陵地に立地する広大な遺跡で、清水遺跡(1地区)はその南側の地点を指す。調査区は、北側から丘陵斜面部のF区、丘陵裾の緩斜面部のE区、および昨年度調査区の下層面で低地部のA・D区を対象とした。

## 遺構と遺物

F区からは、住居跡等の遺構は検出されず、遺構密度も薄いことから、丘陵斜面部に集落は展開していないことがうかがえる。

E区からは、3軒の竪穴住居跡を検出しており、本年度調査の中心的な地区である。検出した住居跡のひとつ、ST1158は、黒ボク土中に築かれており、覆土上層には灰白色火山灰が厚く堆積していた。昨年度の調査でも同様の火山灰を検出し、10世紀初頭に噴火した十和田火山のものとの分析結果を得ている。出土遺物は、現状で確認できるかぎり、9世紀後半頃のものと考えられ、これは他の住居跡からの出土遺物でも同様である。

A・D区からは、調査区を南北に貫く溝を検出した。複雑に蛇行するため、自然流路、あるいはそれを一部改修し水路としたものと考えられる。遺物はほとんど出土しなかったが、昨年度の調査により上層面で検出した溝と大きな時期差は、ないものと考えられる。

## まとめ

22・23年度の調査成果から、調査区に広がる集落は、9世紀後半頃から営まれ、10世紀初頭以前には廃棄されていたことがわかった。比較的短命な集落といえる。調査では、集落の西端を検出していると考えられ、中心は、東側の斜面裾部に広がっていることが予想される。今後の出土資料の分析と、調査事例の増加によって集落の全体像がより明確になるものと思われる。

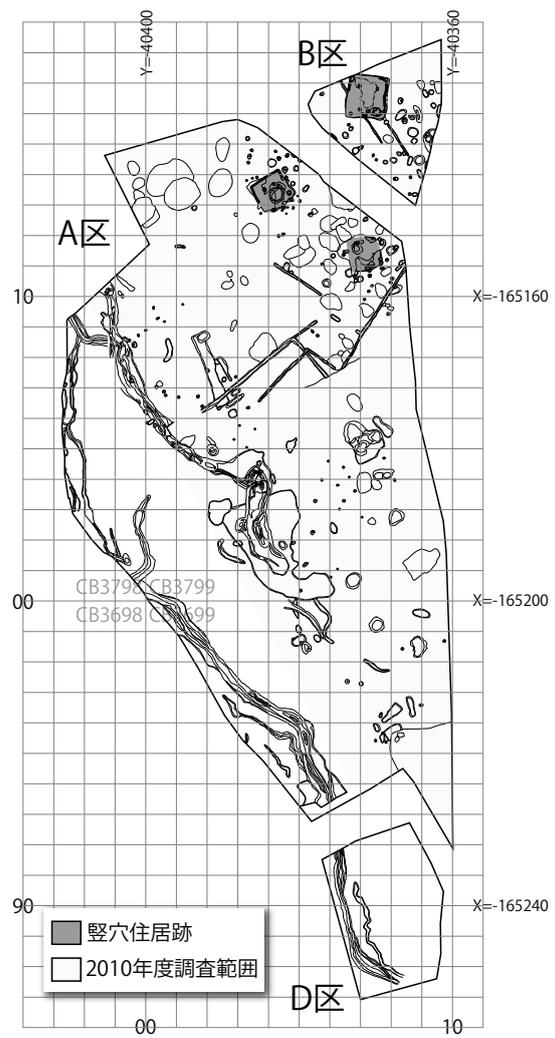
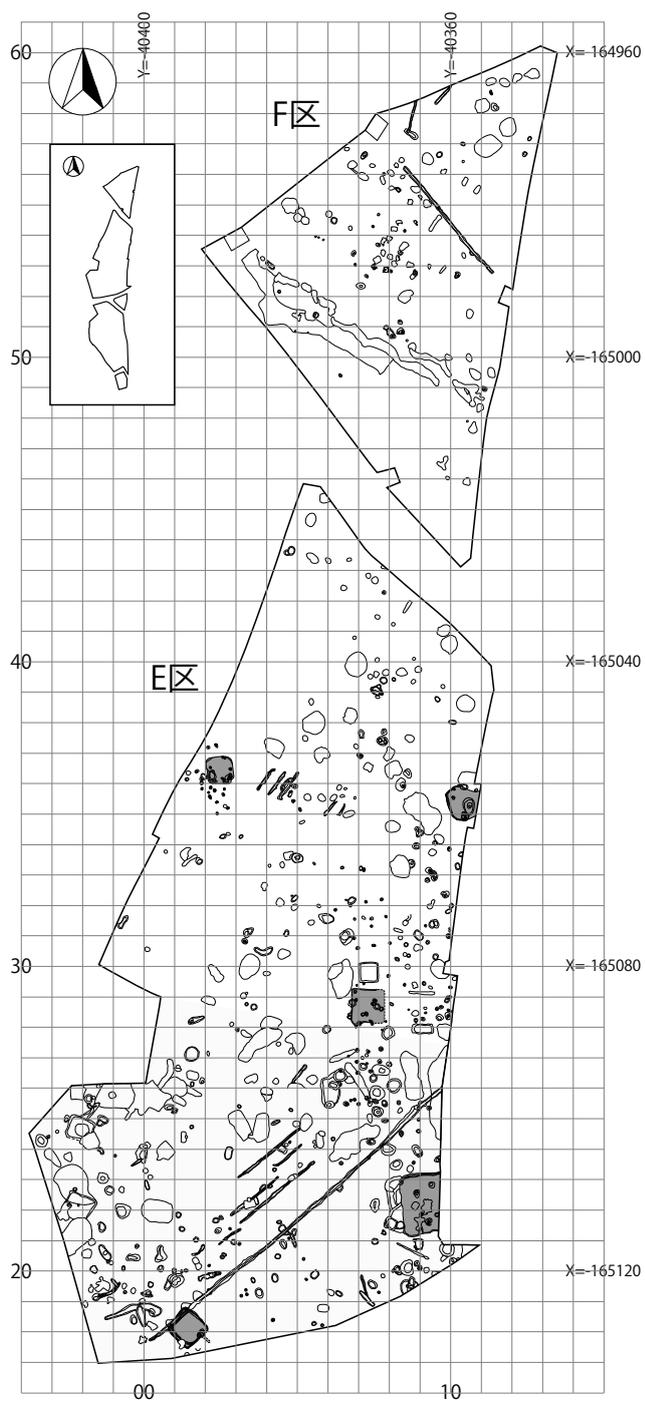


図1 遺構配置図 (S = 1/1,000)



写真1 調査区遠景 (南から)



写真2 火山灰が堆積した竪穴住居跡 (南西から)



写真3 カマド遺物出土状況 (西から)